高度機能・治療センター NO.31

A R

2016.12

乳がんホルモン療法と「骨の健康」

骨の健康? 何のことかピンとこない方がほとんどだと思います。ただ、骨粗鬆症(こつそしょうしょう)という病名はおそらくどこかで聞かれたことがあるでしょうし、人間ドックの健診などで骨密度(骨塩量とも言います)の検査を受けた方も多いと思います。閉経後乳がん治療に用いられる代表的なホルモン剤であるアロマターゼ阻害薬にはこの骨密度を低下させる副作用があります。今回はホルモン療法と骨密度について解説します。

骨の健康保持に重要な女性ホルモン(エストロゲン)

女性ホルモンであるエストロゲンは骨を健康的に保つのに重要です。閉経後の女性は低エストロゲン状態にあるため、加齢にともない骨密度が低下してゆきます。それがある程度以下になり骨がもろくなった状態が骨粗鬆症であり、骨折しないように注意が必要です。

アロマターゼ阻害薬と骨密度

ホルモン療法が有効な閉経後乳がんでの代表的な治療薬はアロマターゼ阻害薬です。アナストロゾール(商品名アリミデックス)、エキセメスタン(商品名アロマシン)、レトロゾール(商品名フェマーラ)などが該当します。こうした薬剤は閉経後もともと低レベルの血中エストロゲン濃度をさらに低下させることによりエストロゲンを餌とする乳がんに対して効果を発揮します。ただ、こうしたアロマターゼ阻害薬の使用により骨密度減少のリスクが増えますので、使用開始前の骨密度を確認しておく必要があります。骨密度は背骨や太もものつけ根の骨のレントゲン検査で測定するDEXA(デキサ)法が一般的で当院でもこの方法を採用しています。

なお、ホルモン剤のうちでもタモキシフェン(商品名ノルバデックス)という薬剤は骨に対して保護的に作用しますので、骨密度減少が著明であればタモキシフェンを選択するのが一般的ですが、下記のような予防策を講じながらアロマターゼ阻害薬を投与することも可能です。

骨密度減少の予防策

骨密度の減少がありながらもアロマターゼ阻害薬投与が望ましいと判断されるような場合には、カルシウムやビタミンDの同時投与を行いながらアロマターゼ阻害薬を使用します。ビスフォスフォネートという薬の内服やデノスマブ(商品名プラリア)という注射も骨密度減少や骨折に対して予防効果があります。また、日常生活では適度な運動を心がけてください。こうした工夫や適切な予防により骨を丈夫に保ち、いきいきとした生活を送ってください。



さらに詳しいことを お知りになりたいことがありましたら 乳がん高度検診・治療センターに お問い合わせ ください。

市立貝塚病院 TEL:072-422-5865



